

ラジオホームドクター 4月28日分

「防げる病気、守れる命」②キャッチアップ接種と子宮頸がん検診

さて昨日はHPVワクチンの定期接種の積極的勧奨についてお話ししましたが、何かおかしいことに気づいておられませんか。一つは、性交渉によるウィルスの感染が原因である病気ならば、男子はどうなるのということ、もう一つは積極的勧奨がなかったため定期接種であることを知らずに過ごしてきた人たちはどうなるの、という2点です。

まず男子へのワクチン接種の問題です。HPVワクチンは以前より[子宮頸がんワクチン]と呼ばれてきたために、男子はこのウィルスに感染しないのだと思われているかもしれませんが。しかし残念ながらというより当然ながら性感染症であるこのウィルス感染症は男子にも感染しがんを発症します。そのためワクチン先進国では女子と同様男子にもワクチン接種を行っています。これらの取り組みを最も積極的に行ってい

るオーストラリアでは2028年には子宮頸がんは制圧されると予想されています。

残念ながら日本においてはまだ男子の定期接種には組み込まれていませんが、私たち子宮頸がんを制圧したい産婦人科医たちは一日も早い男子への接種開始を国に働きかけ続けています。

次に女子の定期接種として始まりながらすぐ停止した平成25年から昨年3月までの9年間に接種ができなかった方々のためには、HPVワクチンのキャッチアップ接種という名前で追加の接種機会が設けられています。キャッチアップ接種の対象者は平成9年から17年に生まれた女子で定期接種と同様公費で賄われるため費用は掛かりません。ただし3年間の期限付きでもう1年経過しました、あと2年足らずしか時間はありません。接種は通常3回で6か月かかります。接種の対象者には4月1日現在の住所地宛に接種券が届けられています。学生さんのように住所地はそのまま残して別の地域に住んでおみえの方は、土曜日

の休みなどに帰省を兼ねて接種に行かれるといいですね。

最後に子宮頸がん検診についてお話しします。昔から病気は早期発見早期治療と言われてきました。今は健康診断などで体の異常を早く見つけましょうという時代から、生活習慣を見直して病気の予防に重きを置きましょうという時代になってきました。

しかし子宮頸がんについては、生活習慣は当てはまりません。そこでまず一次予防としてワクチン接種があるのですが残念ながらワクチンだけでは完全に子宮頸がんの発症を抑えることは出来ません、さらに二次予防として子宮頸がん検診があり、癌になる前に異常を見つけることが出来るのです。子宮頸がん検診は、昭和 36 年宮城県で始まり昭和 57 年からは全国で行われていますが、残念ながら日本の検診受診率は 40 %程度で、OECD 加盟国中最下位です。

下呂市では 4 年前から個別検診ばかりでなく集団検診のバス検診においてもすべての住民検診において、

液状検体法といって採取した細胞を特殊な液体の中に集めて検査する方法を採用しています。

皆さんには子宮頸がんはHPVというウィルスの感染が原因であるというお話をしてきました、それではHPV ウィルスは検出できるのかということですが、HPV ウィルスは検出できます、ただし、液状検体法なら検出できるのです。住民検診においてはコストのかかるウィルス検査を全員に常時行うことは出来ません。そこで下呂市では昨年度より通常の検診に上乘せ検診として30歳から60歳までの5歳刻みでHPV ウィルス検査を組み込むことにしました。5年毎にウィルス検査の対象者になるわけです。

この対策法は現在岐阜県産婦人科医会で検討を重ねておりやがて岐阜県モデルとして県内全域で同様な取り組みが始まることが期待されています。

以上述べてきたように、ワクチン接種率80%検診受診率80%、を維持できるようになれば、やっと子宮頸がん対策先進国となり制圧が近くなってくるので

す、私たちはこれを目指してさらに働きかけを行って
いきます。

「防ぐことのできる病気、守ることができる命」

子宮頸がんはワクチン接種により防ぐことのできる
病気です、さらに子宮頸がん検診を行うことで、女性
と、母と子供の命を守ることができるのです。

どうか HPV ワクチン接種と子宮頸がん検診をお願い
します。そして子宮頸がんを制圧しましょう。